

福知山公立大学 2025 年度卒業式・学位授与式
式辞

地域経営学部地域経営学科 76 名、医療福祉経営学科 25 名、情報学部情報学科 86 名の卒業生のみなさん、そして、大学院地域情報学研究科の 15 名の修了生のみなさん、本日晴れて佳き日を迎えられましたこと、心よりお祝いを申し上げます。教職員を代表して、みなさんのこれまでの努力と成長に深い敬意を表します。また、学生たちを陰に日向に支え、励ましてこられたご家族のみなさまにも、お祝い申し上げます。本日、福知山市長・大橋一夫様にご臨席を賜り、このように卒業式・学位授与式を挙行できますことを、大きな喜びと感じております。

本日まで卒業を迎えられたみなさんが高校生・大学生として過ごされたのは、社会のあり方が劇的に変化した時代でした。長引いた新型コロナウイルスの蔓延はもちろん、国際情勢の予測できない変化も私たちの生活に大きな影響を与えましたし、今も与えています。それに加えて、私たちの生活や働き方、そして「学ぶ」ことの意味そのものを根底から揺るがす出来事が生じました。それは、生成 AI の爆発的とも言える普及と、社会全体の急速なデジタルトランスフォーメーションの進展です。

情報技術がかつてない速度で進化し、社会の隅々にまで浸透していくこの時代において、みなさんは本学が掲げる「地域協働型教育研究」を通じて学びを進めてこられました。このことは極めて重要な意味を持ちます。なぜならみなさんは、単に机の上で最新の理論やスキルを学んだだけでなく、それらを「現実の地域社会のためにいかに活用するか」という実践的な問いに挑み続けてきたからです。

みなさんの活動の軌跡を振り返ると、正課での専門的な学びと地域社会を繋ぐ素晴らしい実践が数多く見られます。たとえば、AI 技術を地域の関係者との対話を通じて現場に実装することを目指し、商店街の空き店舗を活用したコワーキングスペースの立ち上げや地域企業への DX 支援に取り組んだグループがありました。また、自ら学生記者事業を創設して地域の起業家たちの声を発信し、地域メディアへと発展させた実践や、規格外の万願寺とうがらしや地域資源を活用した新商品開発を地元企業と実現した取り組みもありました。さらに、遠く離れた能登半島地震の被災地に足を運び、若さを活かした力仕事だけではなく、コンサートや子ども向けイベントの実施を通じて、物理的・心理的な面から被災された方々の支援に貢献した学生もいました。

これらの取り組みに現れているように、みなさんが学んだのは、いかに高度な情報技術や専門知識であっても、それ自体が目的ではないということです。技術や知識は常に、そこに暮らす人々の課題を解決し、豊かさをもたらすための手段でなければなりません。地域の現

場に足を運び、人々のリアルな悩みに触れ、試行錯誤を繰り返すいわば「泥臭い」と言えるプロセスを経て初めて、データや理論は血の通った「生きた情報」となり、社会を動かす力となるのです。

また、みなさんが地域の人々と協働しながら取り組んだ課題は、一見すると特定の地域の「小さな」問題に過ぎないように見えるかもしれませんが、しかし、いま例として挙げました、人口減少の中でのコミュニティの維持、地域経済の活性化やフードロスの削減、そして被災地の復興支援といった課題は、日本全国、ひいては世界の多くの地域が直面している「大きな」社会課題そのものでもあるのです。本学がフィールドとしてきた北近畿地域で培われた「現場の課題をテクノロジーや専門知と結びつけて解決する力」は、これからの知識基盤社会を牽引するみなさんにとって、どのような場所でも通用する普遍的な武器となるはずです。

これからの時代、AI はさらに進化し、知識の獲得や情報の整理といった作業は人間から機械へと代替されていくでしょう。しかし、だからこそ問われるのは「人間ならではの力」です。AI は膨大なデータから一定の答えの選択肢を出すことはできても、自らの意志で社会の痛みに寄り添い、「何を解決すべきか」「どうすれば人々が幸せになれるか」という問いを立てることはできません。現場の温度を知り、地域の人々との協働を通じて「問いを立てる意志とちから」を鍛え上げてきたみなさんには、AI を活用しながらもそれに使われるのではなく、AI を使いこなし、より良い社会をデザインしていく力が備わっていると私は確信しています。

本日、みなさんは卒業によって本学での学びに一つの区切りをつけることになりました。しかし、みなさんがこれから飛び込む社会の変化は激しく、大学で得た知識や技術だけでは太刀打ちできない壁に幾度も直面することでしょう。だからこそ、今日という日は学びの終わりではなく、生涯にわたる「学びの継続」のスタートラインなのです。社会のどこにいても、常に現場の課題に関心を持ち、新たな知識・スキルを吸収し、他者と協働して解決策を模索する探究者であり続けてください。福知山公立大学での学びと経験を人生の確固たる基礎とし、変化を恐れず、みなさんお一人お一人が豊かで充実した人生を歩まれることを心より祈念し、私からの饞の言葉といたします。

本日のご卒業、本当におめでとうございます。

2026年3月23日

福知山公立大学学長 川添 信介